



一年の計は、一月に有り

2018年(平成30年)がスタートしました。旧年中は、本校教育にご理解とご協力を賜り、ありがとうございました。今年もどうぞよろしくお願いいたします。

2学期の終業式では、「2018年の目標を決めましょう。そして、その目標を尺度として、この3学期のめあてを決めましょう。」と子供たちに話をしました。そしてそのために、「2学期のあゆみを参考にしながら、めあてを決めましょう。」と伝えています。しかしながらめあての設定、そして何よりそれに向かうプロセス作りは大人でもとても難しいものです。

大人でも子供でも、目標を立てるにあたり、最初にすべきことは、現状を知ることです。何が強みなのか、そして、課題は何か、自己分析して現状を把握することがとても大切です。次に、保護者の皆様自身がお子様のように育ってほしいという願いを加味ながら、お子様がこれから何を目標にすべきなのかについて話し合う機会を作ります。その上でめざす最終の目標(2018年のめあて)を設定します。この目標さえできれば、あとは、ここに到達するための途中の目標(3学期のめあて、新学期のめあて等)を節目節目に作っていけばよいのです。実はこの小さなめあて作りがとても大切です。達成可能な小めあてをたくさん作ることで、何度も小目標をクリアすることができ結果、成功の体験数が増え、やる気が出てくるからです。そのためにも、小めあてを達成するたびに大人はしっかりと褒めることを忘れてはいけません。しっかりと最終目標を意識しながら、足元のスモールステップを一步一步上り詰めていくのです。登山とよく似ています。躓かないように足元を見ながら、山頂を目指す。時々顔を上げて頂上を見ることは大切です。目指す地点(ゴール)が分かっているならば、道に迷うことは少なくなりますから。そして、何よりこのめあてを持って生きることは、やがて到来するAI時代に打ち勝つ布石になるのです。万能と思われているAIは、自身でめあてを設定することができないのです。変化する状況の中で小目標を柔軟に設定し、臨機応変に対応しながら最終目標に到達できるのは人間の強みなのですから。

以上、とても簡単に書きましたが、いざ実行することはとても大変です。ご家庭や学校のバックアップが必要です。家庭と学校がしっかりと連絡を取り合い、共に歩むことでお子様の目標到達度が向上します。今年も私たち教職員一同、子供たちが努力を積み重ね、少しずつ成長していけるよう支援していきたいと思っております。引き続き、保護者の皆様の温かいご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、努力しているにも関わらず、めあてになかなか近づけないことがあります。そんなとき、あえて変節点(今までに実行したことの無いことに敢えてチャレンジすること)を作るのはどうでしょう。普段の自分だけでは気づかないアプローチが見つかるかもしれません。行き詰ったときには、別角度で、多面的に物事をとらえ、新しい手法を取り入れることで、急激にステップアップする可能性のある機会を自ら設定する勇気が必要かもしれません。森澤 克行